

## 2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	設計・生産の情報化小委員会	主 査 名：猪里孝司 就任年月：2011 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	情報システム技術委員会	委員長名：加賀有津子
設 置 期 間	2011 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p><b>【設置目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オブジェクト指向型 3D-CAD や BIM による設計・生産のプロセス変化を考える。</li> <li>・設計・生産のプロセス変化をもたらす建物情報モデル (BIM) や Integrated Project Delivery (IPD, 統合プロジェクト推進法) 利用の可能性、問題点を検討議論し、実利用への可能性を探る。</li> <li>・他産業を含めた各業界の動向を知り、建設界の方向を見極め提案・提言する。</li> <li>・委員会活動を通じて得られた情報を分析・整理し広く会員に還元する。</li> </ul> <p><b>【活動計画】</b></p> <p>初年度： ・ BIM 活用の推進の方策検討          ・ BIM 関連団体との協調活動          ・ 大会において研究協議会を開催          ・ 情報・システム・利用・技術シンポジウムにおいて活動成果を発表</p> <p>2 年度： ・ BIM 関連団体との協調推進          ・ BIM 活用の提言          ・ 第 14 回 BIM・CAD 利用実態調査を実施          ・ 情報・システム・利用・技術シンポジウムにおいて活動成果を発表          ・ シンポジウム 2013 を開催</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：猪里孝司 (大成建設)          幹事：榊原克巳 (CI ラボ)、田部井明 (竹中工務店)、中元三郎 (安井建築設計事務所)          委員：安生 暁 (日建設計)、加賀有津子 (大阪大学大学院)、荻谷邦彦 (山下設計)、玉井 洋 (鹿島建設)、能勢浩三 (竹中工務店)、東山恒一 (清水建設)、溝口直樹 (ダイテックホールディング)、本江正茂 (東北大学大学院)、山極邦之 (大林組)、山口重之 (東京都市大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p><b>設計・生産の情報化実態調査WG</b>：設計業務における CAD および BIM に利用や IT 化の実態を調査するとともに経年変化を分析し、建築学会および他の諸団体活動の基礎データとして提供する。</p> <p><b>設計・生産の先端利用技術調査WG</b>：建築設計に関連する情報化技術変革の兆しを捉え変革への対応について調査・研究し、それら先端技術の建築界での導入・普及促進に、学術・技術的見地から寄与することを目的とする。</p> <p><b>IPD 研究WG</b>：米国建築家協会 (AIA) で提唱された Integrated Project Delivery (IPD、統合プロジェクト推進法) を調査研究し、国内への普及展開の可能性を検討する。</p>	
2012 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：学会常設委員会でのみ 委員会 HP アドレス： <a href="http://aij.cn.cst.nihon-u.ac.jp/modules/seisan3/">http://aij.cn.cst.nihon-u.ac.jp/modules/seisan3/</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	

<p>催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画</p>	<p>1. シンポジウム「BIM：世界の最新状況を知る」 参加者数118名 2. 第35回情報・システム・利用・技術シンポジウム ・小委員会企画研究集会①「BIM・IPDによる設計生産業務の国際標準 ～ガラパゴス建設産業の脱出口～」 参加者数 48名 『第35回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集』所収</p>
<p>大会研究集会</p>	
<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 2012年10月に国際的なBIM推進団体の国際会議が日本で開催されるのにあわせて、海外からの発表者を交えたシンポジウムを開催した。海外からはBIM推進の目的と現状について発表があり、国内事例として、教育、設計、施工での具体的なBIM活用事例について発表した。 海外では、「建築のライフサイクルコストを低減させるため」、「建設産業の国際競争力を育成するため」、「建設産業の生産性を向上させるため」など戦略的な目的を達成するための手段としてBIM推進が位置づけられていることが分かった。一方、日本では個々の事例では海外以上に進んだ取り組みが行われているが分かったが、全体的な目的、方向についての議論が必要であることが明らかになった。</p> <p>2. 2012年12月に情報システム利用技術シンポジウムの研究集会「BIM・IPDによる設計生産業務の国際標準 ～ガラパゴス建設産業の脱出口～」を企画した。BIM・IPDによる建築の設計生産の新たな業務プロセスを俯瞰し、その変革による効果と可能性について考察することが出来た。</p> <p>3. 第14回BIM・CAD利用実態調査を実施し、上記研究集会で発表した。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>1. BIMの活用事例やその可能性は各方面で唱えられ、さまざまな団体が推進活動を行っている。現状では、各団体が独自に活動しているが、BIMの影響を考えると関係団体の協調が不可欠と考える。建築学会がその中核を担うべきだと考えるが、微力のためそこまで至っていない。</p>
<p>その他</p>	